

令和8年度 板橋区立板橋第五小学校 学校経営方針

令和8年4月13日
板橋区立板橋第五小学校
校長 西谷 秀幸

1 教育目標

- ともに高め合う子 … 互いのよさを認め、違いを受け入れて協力できる児童：「徳育」
- 学びを楽しむ子 … 見通しをもって、自ら主体的に「学ぶ」児童：「知育」
- 明るくたくましい子 … 自己肯定感が高く、心身ともに健康な児童：「体育」

★「夢がつながる学びのエリア」のめざす子ども像

- 自ら考え、見通しをもって取り組み、心身ともに健康で思いやりの心をもって接することができる子

2 学校経営の基本方針（3つの柱）

- (1) 授業と学校生活が楽しい学校
- (2) 見通しをもって、主体的に取り組む学校
- (3) 違いを受け入れ、互いに協力できる学校

3 学校経営方針の具現化

(1) 授業と学校生活が楽しい学校 ～「教師こそが最大の教育環境」～

- ① 「内容・方法・変容（向上）」の3つの視点から「楽しい」授業を行う。
 - 「内容」「方法」「変容（向上）」の3つの視点から楽しい授業を創造して授業改善。
- ② Society5.0の時代に必要なプログラミング教育を推進する。
 - 全学年で、ロボット等を活用したプログラミング教育を実施
→トライ＆エラー、主体的・協働的な学び、粘り強く課題解決、プログラミング的思考の育成。
 - 課外活動：FLL（FAST LEGO LEAGUE）に参加→目標「世界大会での入賞」
- ③ 一人一台端末を効果的に活用し、新たな時代の学習を推進する。
 - 「すららドリル」「Surara-i」→基礎基本の定着、個に応じた学習（授業や家庭学習で活用）
 - タイピング検定→「キーボー島アドベンチャー」で1級合格者に合格証。情報活用能力の向上
 - 卒業までに「Google スライド」や「Canva」を使った効果的なプレゼンテーション力を習得
 - 「GIGAワークブックとうきょう」「NHK for School」→情報モラルの基本、適切に活用できる判断力を育成。
 - Chromebook活用推進プラン→小中9年間の系統性を意識した一人一台端末の活用技能を習得。

【参考】Chromebook活用推進プラン



- ④ 教師としての資質向上、指導力・授業力の向上を目指す。
 - 授業研究、OJT研修会、都や区の研修→「学び続ける」ことで、授業力・指導力の向上。
- ⑤ 授業規律・学習規律を徹底させる。
 - 学習の土台→「話の聴き方」と「イスは4本脚ですわる」ことを徹底。
- ⑥ 児童の「読み解く力」の育成を図る。
 - 「問題解決型・探究型の授業」「協働学習」→「読み解く力」「書く力」の育成。
 - 低学年を中心に「MIM（多層指導モデル）」教材の活用。

⑦ **言語活動・読書を充実させる。**

- 日常の授業で言語活動の充実→「お互いに伝え合う力」と言語力の育成。
- 読書をする習慣→「年間1万ページ」で表彰。

⑧ **地域を積極的に活用し、教材化を図っていく。**

- 地域人材・施設・文化等を生かした教育活動や行事→PTA・ICSや学校支援地域本部と連携。

⑨ **道徳の時間の充実を図る。**

- 「特別の教科 道徳」を充実させ、「考える道徳」の実現。全教育活動で道徳教育を推進。

⑩ **体力向上の意欲を高める。**

- 体力向上に向けた「1校1取組」の取組。日常の体育の中や遊びを通して、体力の向上。

(2) 見通しをもって主体的に取り組む学校

～「見通し・粘り強い取組・振り返り、大人がレールを敷かない指導」～

① **「教える」授業から、児童が「主体的・対話的に学ぶ」学習へ転換する。**

- 自ら問題を設定 → 問題を協働学習・対話的な学習で解決 → 深い学び（思考力・表現力）
- 総合的な学習の時間の改善（プロジェクト型学習）→ 調べて考えたことを他者（専門家・有識者・関係者・ユーザー等）と共有してフィードバック → さらに改善 → 表現

② **「主体的・対話的で深い学び」の実現を図る。**

- 「板橋区授業スタンダード」に基づいた「質の高いめあて」→「自力解決（＝主体的な学び）」→「小グループや全体での話し合い（＝対話的な学び）」→「まとめ・振り返り」という学習サイクルを通して、自ら調べて考え、表現する能力を育て、「深い学び」の実現。
- 学ぶ内容・調べる方法・学習場所を選んだり、自分のペースで取り組んだりする「自己調整型学習」の導入（教科や単元の特性に応じて実施）→児童の主体的な学びの実現。

③ **家庭学習を充実させ、学びの習慣化を図る。**

- 自学力を高め、与えられる宿題から主体的に取り組む自主学習にシフト。

(3) 違いを受け入れ、互いに協力できる学校

～「大人と子供、子供同士、枠に入らない児童を受け入れ、協力できる関係」～

① **「学校は楽しいところ」＝「一人一人の居場所や活躍がある学校」にする。**

- 集団行動が難しい児童や活躍の場が見い出せない児童も「居場所や活躍がある学校」に。

② **自分とは違う児童等を受け入れ、互いに協力できる学級・学年集団をつくる。**

- 「多様性」「インクルージョン（共生）」→仲間として、互いに協力できる学級・学年集団。

③ **特別活動の充実を図る。**

- 「板五フェスティバル」などの異年齢集団活動→友達や下学年に優しくする態度。
- 「見えないところで支えてくれている人がいる」→共に生きる姿勢の育成。

④ **いじめの未然防止に努めるとともに、早期発見と早期対応を図る。**

- 「板橋第五小学校いじめ防止対策基本方針」→未然防止、早期発見と早期対応。

⑤ **特別支援教育を充実させる。**

- ステップアップ教室「なのはな」→一人一人に合わせた教育で子供の良さを伸長。
- スクールカウンセラー（SC）や関係諸機関と連携して個に応じた指導を推進

⑥ **Web-QU（学校満足度意識調査）を効果的に活用する。**

- 3～6年生で実施し、一人一人に必要な支援→学級経営の安定化。

⑦ **積極的な生活指導を充実させる。**

- 話し合いによる解決を身に付け、相手の身になって考えられる子を育成。

(4) その他

① **ホームページや各種お便りを充実させる。**

- ホームページ（学校日記・校長日記）で学校生活の様子を積極的に発信
→「学校の外からでも学校の中（教育活動の様子）が見える学校」

② **保幼小中連携・小中一貫教育（「夢がつながる学びのエリア」）を推進する。**

- 6年生が板二中に行って質問、中学校の先生の授業→不安を軽減して中1ギャップの解消。
- 3学期に1年生が保育園児と本校で直接交流→小1プロブレムの解消、児童の成長の促進。

③ **校内外の安全を確保する。**

- 大人の指示を待たずに、自分で自分の身を守ることができる危機回避能力や態度の育成。

④ **学校に歌声を響かせる。**

- 音楽の授業や音楽朝会、各学級での取組→校内に歌声を響かせ、全校で校歌を歌う機会の設定。